

## 夏休み後、元気に会いましょう

令和2年3月、日本全国の学校が突然の臨時休校となり、その期間は3ヶ月の長期間となりました。その間、皆さんは、外出する事もままならず、家庭内で学習したり、人目をはばかりながらトレーニングしたり、あるいは、あまりに長期間の休校で生活リズムが崩れてしまったこともあったのではないのでしょうか。

5月末の久しぶりの分散登校では、とても緊張した雰囲気、どのクラスも静まりかえり、心配しました。それでも少しずつ学校生活に戻り、日常が回復してきました。あつという間の2ヶ月だったのでしょうか。それとも、普段とは異なる生活感で、戸惑ったのでしょうか。

皆さんは、この間、様々な事を我慢したり、失うものがあったり、感染を心配したりの毎日で大変でしたよね。「当たり前毎日の大切さ」を感じたり、「当たり前毎日の楽しさや苦しさ」も実感したりする事になったと思います。

振り返ってみると、3密を防ぐために、4月の教科書配付は校庭で、補助教材は体育館で配付、入学式も異例の2回に分けての実施となりました。6月からの学校生活は8時30分からの登校、検温、手洗い、部活動の制限、そして授業内容も実験やグループ学習等の制限、様々な制約下で、知らず知らずのうちにストレスが溜まっていると思います。

1年生は様々な事に戸惑いながらの中学校生活で、やっと慣れたかと思ったら、夏休みという感じでしょうか。2年生は、1年間の経験を基盤に活躍を期待していましたが、機会が少なく、私自身とても残念です。しかし、中堅学年としてしっかり取り組んでくれている事を嬉しく思います。

3年生は、いよいよ「進路に向かって」という大変な時期になりますが、決して自分自身を追いつめないでください。担任の先生との三者面談で、じっくり話をしてみてください。ホームページ等で各学校の特色を研究したり、オープンスクール等に参加してみたりする機会があっても良いのかもしれない。「進路を考える」とは、自分自身のこれまでを振り返りながら、今後、自分の目標を設定したり、目標が決まっている生徒は、どのように取り組んでいくかをしっかりと考えたり、実践したりする事で、成長していくという過程でもあります。

日本全国の中学3年生の多くが、そのプロセスを経験します。これまでの長町中学校の生徒達もそうでした。私自身、学級担任をしている時に、苦しんでいる生徒達の姿や、点数に一喜一憂する場面も多く見てきました。目標を達成できた生徒もそうでなかった生徒も数多く見てきました。

そして、その苦しさや痛み、喜びを自分の生きていく貴重な財産にしている姿も数多く見てきました。4月、数十年前の教え子がコロナ禍で、仙台に戻ってきました。もう二人のお子さんも成長しています。その教え子は中学校時代に第1希望の公立高校に残念ながら合格できませんでした。しかし、第2希望の学校で気持ちを切り替え、高校生活を明るく過ごし、大学は自分の希望の学校に推薦入学でだれよりも早く合格しました。あの時、心配で家庭訪問した時の教え子の言葉が忘れられません。「お父さん、お母さん、お金がかかるけど私立で頑張るからよろしくお願いします。」と私の前でご両親に涙を浮かべて頭を下げていました。その話をしたら「そんな事言ってませんよ。忘れちゃいました。」と大笑いしていました。今、とても幸せな人生を歩んでいるそうです。人生は順風満帆ではありません。この事態は、まだ続きそうです。それでも、今皆さんが、苦しんだり、悩んだりしていること自体が、この時代を乗り切るたくましさや身を付けているという事でもあります。自分を大切に、命を大切に、夏休み明け、また元気に会いましょう。